

進路だより

令和2年4月24日発行

岩手県立釜石祥雲支援学校

進路指導部

校長挨拶



岩手県立釜石祥雲支援学校
校長 柏崎りえ

満開の桜に迎えられて始業式・入学式を挙行し、令和2年度の学校生活が始まりました。本校舎にも高等部校舎にもそして病棟にも児童生徒の笑顔と元気な声があふれ、学校全体に活気が戻ってきました。

やっと本来の学校らしさを取り戻したところではありますが、全国に緊急事態宣言が出されるなど、昨年度から続いている新型コロナウイルス感染症の拡大状況が、日常生活にも学校生活にも様々な影響を及ぼしていることは否めません。

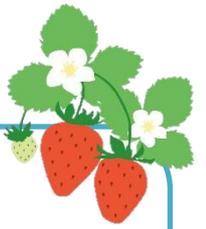
進路に関わるのところでは、4月15日に開催された岩手県特別支援学校校長協議会において、高等部の前期現場実習中止が決まりました。何をおいても生徒の安全を第一に考えなければならないことからこうした決定に至ったわけですが、この思いは学校のみならず、日頃からご理解とご協力いただいている各地域の実習先の皆さんも同じで、大切な生徒を預かる以上は万が一の事があってはならない、との声が寄せられました。日々刻々と変化する現状においては、前期現場実習は中止と判断せざるを得ませんでした。このことにより、県内全ての特別支援学校では、校内実習の更なる充実はもちろんのこと、各圏域のネットワーク会議等を通じて、高等部3年生を中心とした個々の情報交換を密に行っていくことを確認しました。保護者の皆様におかれましては、心配に思われることが多々あるかとお察しいたしますが、こうした状況を乗り越えるために、学校と家庭が一体となって情報交換を積み重ねながら、生徒たちの働く力を育てていきたいと思っておりますので、ご理解のほどお願い申し上げます。

そして改めて、働く力を支える基本的な生活習慣の確立と健康管理の大切さについて意識を高めていくときであると感じています。学校生活において「進路」という言葉を聞くと、高等部になってからというイメージが強く、小学部や中学部のうちは、まだまだ先のことと思われがちですが、自分でできることを増やし、生活に必要な体力を付け、そして衛生に関わる習慣を身に付けるためには、小学部からの積み重ねが大切です。

子どもたちが、自分らしく充実した人生を歩んでゆけるよう、学校は保護者の皆様と連携し、子どもたちの成長を支えていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。



高等部卒業生の様子



3月に高等部を卒業した生徒が、それぞれの進路先で新たなスタートを切りました。4月1日からスタートしている卒業生もいれば、3月30日から仕事を開始した方もいました。

初日は、緊張した様子でしたが、2週間後には進路先の環境にも溶け込み、働く人としての意識をもち、自分の仕事に集中して取り組んでいました。

今後も進路先を訪問し、進路先での様子を見たり担当の方から話を聞いたりして、アフターケアを実施していきたいと思います。

まごころ就労支援センター で頑張っている卒業生



布マスクづくりに貢献
しています！！



作業学習で勉強したこ
とが活かされています。



かまいしワーク・ステーション で頑張っている卒業生



毎日通勤も
楽しいが
頑張りな
す。張って
ます。



ずっと学生でいたかっ
たけど、働いてみた
ら、仕事ってけっこう
楽しい！

※スペース等の関係で全員分は載せておりません。ご了承ください。

進路担当職員を紹介

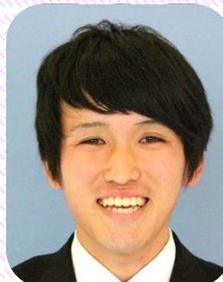
今年度の進路担当職員です。進路に関してご不明な点などがありましたら、各学部の担当職員までご相談ください。よろしくお願いします。



斎藤道幸 (高等部)



鈴木思子 (高学部)



菅原優人 (中学部)



菅野千暁 (小等部)

